

(中間評価)

世界で活躍できる研究者戦略育成事業

(実施期間：令和2年度～令和11年度)

プログラム名：学際融合グローバル研究者育成東北イニシアティブ (TI-FRIS)

代表機関：東北大学（総括責任者：富永 恒二）

共同実施機関：弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学、三菱総合研究所（＊）

取組の概要

世界で活躍できる研究者には、それぞれの専門分野で世界を先導しつつ、異分野の研究者と学際研究を展開できる力（学際性）、世界の研究者と切磋琢磨して研究を推進する力（国際性）、および社会と連携して研究成果を社会実装できる力（社会性）の全てが必要不可欠である。本事業では、学際融合研究を推進する全国でも稀有な研究者育成体制を有する東北大学と、独自の研究の強みと研究者育成体制や産業界との連携を有する弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学、および社会実装の調査研究に強みを有する三菱総合研究所（＊）が、これまでの強固な連携関係と実績を元にコンソーシアムを形成し、国内外の連携研究機関や連携企業の協力を得ながら、「学際性」、「国際性」、「社会性」を兼ね備えた世界トップクラス研究者を育成するための、東北地域全体をカバーする新たな研究者育成プログラムを構築するとともに、その有効性を実証する。（＊）令和2年度から令和4年度まで。

（1）評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (事業運営 体制の構 築)	進捗状況 (研究者育 成プログラ ムの開発、 実証、普 及・拡大)	進捗状況 (研究者育 成体制の構 築)	進捗状況 (支援対象 研究者のサ ポート)	今後の進め 方と取組の 継続性・発 展性
S	s	s	s	a	a	a

総合評価：S（卓越した水準にある）

（2）評価コメント

本事業は、東北地域全体の若手研究者育成を推進するために、東北大学を中心として共同実施機関である6大学との連携により効果的な運営体制を構築してきた。各大学から様々な分野の研究者が集い、学際的な協働を可能にする場を提供するとともに、図書館や研究設備などの研究インフラの共有、異分野交流の場であるHub Meeting、国際共同研究支援といったプログラム要素を着実に進展させている点が特筆される。これらの取組により、採択時に指摘されていた東北大学学際科学フロンティア研究所（以下、「学際研」）への過度な依存に対する懸念が解消され、むしろ大学の持つ伝統的な資源を活用した効果的かつ戦略的なモデルとして高く評価できる。

一方で、育成対象者（以下、「TI-FRIS フェロー」）の育成においては、論文数の増加といった具体的な成果が確認されているものの、成果の進捗を評価するモニタリング方式については、指標

の数値化や範囲の最適化が依然として課題である。また、事業終了後の継続性や資金調達に関しても懸念があり、これらを解決するには、国際卓越研究大学制度などの他制度を有効に活用するなどの検討が求められる。本事業の継続的な取組により、共同実施機関 6 大学との連携強化に加え、東北地方を中心に他大学への普及拡大も図り、全国的なモデルケースとして若手研究者育成の先駆的役割を果たすことが期待される。

・進捗状況（全般）：東北地域の 7 大学が連携し、堅実な運営体制を構築した。Hub Meeting、メンタリング、研究支援などにおいて若手研究者育成プログラム開発で実績を挙げ、育成対象者選抜や学際的交流、産学研究交流において目標を大きく上回る成果を達成している。特に、トランスファラブルスキル修得プログラムの運用が順調であり、TI-FRIS フェローの「学際性」や「社会性」の強化が評価できる。今後は、TI-FRIS フェローが大学を牽引する人材となるよう、各大学においてさらなる全学的かつ戦略的な取組が期待される。

・進捗状況（事業運営体制の構築）：本事業は、東北大学のリーダーシップのもと、7 大学の連携が実質的に機能する体制を構築している。TI-FRIS フェローの選考や評価を行う教育評価委員会、活動計画を審議する運営協議会、アドバイザリーボード、外部評価委員会など、重層的かつ手厚い体制が整備されており、順調に機能している。今後も持続可能な体制を維持し東北地域全体の研究者育成に資する支援体制の強化の発展が期待される。

・進捗状況（研究者育成プログラムの開発、実証、普及・拡大）：Hub Meeting や国際共同研究支援をはじめとする効果的なプログラムが実施され、論文数の上昇など具体的な成果が確認されている。外部評価委員会からの意見を取り入れたプログラム改良や多彩な講座の実施、モニタリング体制の整備など、若手研究者育成において創意ある取組が進んでいる。また、国内外のメンターを配置するダブルメンター制度や、TI-FRIS CoRE による研究設備共用ネットワークの構築と共同研究スタートアップ支援も独自の取組として評価され、さらなる成果が期待される。

・進捗状況（研究者育成体制の構築）：地域の大規模拠点校を中心に大学資源を共有し、地域全体で研究者育成を促進するモデルケースとして高く評価される。開発されたプログラムが、若手研究者の研究力向上を支える有効なメカニズムを実現し、今後も本事業の枠組みを活用した東北地域全体の研究力向上に貢献することが期待される。

・進捗状況（支援対象研究者のサポート）：URA による安定した支援と学際研の活動や研究設備の最大活用により、共同実施機関のフェローへの波及効果が明確であり、東北地域全体で研究者の成長を支援するモデルとして更なる展開が期待される。自立した研究環境や研究者の流動性を妨げない体制が整備され、ピアメンタリングやダブルメンター制度など、支援体制も充実している。一方で、国内メンターが現所属研究室の上司である場合のメンタリングの実効性については、今後の検討が必要である。

・今後の進め方と取組の継続性・発展性： 代表機関である東北大学による強いリーダーシップのもと、学際研を効果的かつ戦略的に拡充することで、東北地域全体の若手研究者育成に貢献する体制を整備している点は、高く評価できる。今後はさらに、東北大学及び共同実施機関である 6 大学内での本事業の全学的な位置づけをより明確にし、事業終了後の資金面での課題に対しては東北大学の主導のもと、TI-FRIS が推進する国際共同研究や Hub Meeting、メンタリングといった重要な取組をさらに東北一円に普及拡大することが望まれる。東北大学のような拠点の役割

を果たす大学を国全体に拡大するための貴重な事例として、本事業での経験や工夫を利用しやすい形で整理し、本事業の成果の普及に協力していただきたい。